

河野ら不良職制の居直りを許すな

日刊
動労千葉

1988.6.28
No. 2845

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

いまだに続く脱退強要

革マル・鉄道労連のお先棒をかついだ反動車務課長・河野は、わが動労千葉の四波にわたるストライキ決起に対し、自らの悪業を改めるのではなく、ただただ開き直り、より悪質な動労千葉・国労の組織破壊策動に突き進んでいる。

われわれは、より悪質化した組織破壊攻撃を許すことなく、怒りをこめてさらなる長期波状ストライキの爆発と貫徹をもってたたかいぬかなければならない。

「八・八鉄道労連一周年集案云」へ向けた攻撃

動労革マル・松崎は、八月八日に大宮市において「鉄道労連一周年記念集会」の開催を予定し、それまでに「鉄道労連の組織率七五％達成」という方針を打ち出している。

いま、河野等が画策していることは、この動労革マルの方針にもとずいた組織破壊攻撃である。

動労革マルは、自らの力では「組織拡大」など一歩も進まないことからそれを「出世のエサ」に職制にやらせてやうというのだ。職制は「鉄道労連の組織拡大を一生懸命やらないと出世できないぞ。」と動労革マルに脅かされ、自らの出世のために動労千葉や国労におそいかかる。河野はその典型である。

河野らの脱退強要を断じて許さない!!

河野は、動労千葉の長期波状ストの爆発に対し、完全に開き直り、幕張電車区の国労・動労千葉、千葉車掌区の鉄産労に狙いをつけて、脱退→東鉄労加入の策動を開始したのである。

さらに、動労革マルの温床を作るため、京葉線新習志野基地に動労千葉や国労からの脱退者を集

め、そこへ東京から津田沼へ送り込まれた革マルの海宝や長谷川を送り込もうと画策し、また、土岐らの職制が「主任以上の面接」と称して、職場へ乗り込み、動労千葉脱退をおわせつつ、組織動揺を画策しているのである。

労働者として生きるとしてたたかいて

千葉支管内は、東鉄労、否、全国で唯一いまだに鉄道労連の組織率が五〇％に満たないところである。

われわれ動労千葉のたたかいがあるからだ。動労革マルが大手をふって歩ける職場など千葉ではどこにもないのだ。

この惨状を動労革マル松崎は、河野ら不良職制の尻を叩き「出世」のエサでつろうとしているのだ。この「出世」のエサにダボハゼのように飛び付いた河野らの不良職制を断じて許さない!

ここで屈服し、河野らがイバリちらし、労働者が「小集団」で追いまくられ、泊り明けでも帰らないで夕方まで仕事をさせられるタコ部屋のような職場にするのか。それとも、たたかいぬいて、気分よく働ける職場を作り出すのか。

いまたたかわないで河野らの言うとおりにしたらタコ部屋以下の職場に叩き込まれることは目に見えているではないか。自分の「出世」のためだけで動く動労革マルへのゴマすり職制の言うことの中に、労働者の未来など全くないのだ。

われわれ労働者のたたかいは、われわれが決意をこめて、決起し、たたかいは貫徹するならば必ず勝利する。職場の主人公はわれわれ労働者なのだということ河野らに思い知らせてやろう!

悪徳職制の脅迫をはね返し、強制配転や賃金差別のない気持ちよく働ける職場を作りだすために、長期波状ストを貫徹しよう!